鹿児島市立桜丘中学校
令和４年６月２２日

# 第３号

## 大人の覚悟

校長　上久保大介

先日、ある５０歳代の方から次のような話を聞きました。

私の小さい頃は自然がたくさんあり、毎日友だちと外で遊んでいました。山で秘密基地を作り、家からソーセージなどを持ってきて食べたり、野良犬の世話をしたりしていました。夏は海で落とし穴を作って遊び、冬になっても半ズボンで過ごし、春は菜の花のにおいを感じながら暗くなるまで遊んでいました。なので毎日が楽しかったです。でも、薄暗くなって帰るときは恐怖でした。母が怒りの形相で迎えていたからです。あるときなど、入り口の内側につっかえ棒をして家に入らせてもらえないこともありました。母は**しつけに厳しい**人でした。口癖は２つあって１つめは**「挨拶をしなさい。」**でした。近所の人に会ったら必ず挨拶をするように言われていました。２つめはニュースや新聞で悪いことが報じられると**「〇〇(名前)、お母さんはおまえのことは信じているけど、こんなことはするなよ。信じているけど、お母さんだから言うんだからね。」**でした。私は子供の頃は人並みにいたずらもし、親や先生から叱られることもありました。いたずらが過ぎたときは母が謝ることもありました。でも、決して友だちが嫌がるようなことはしなかったし、他人に迷惑をかけるようなこともしませんでした。母の顔が浮かんだからです。

この方の小さい頃はスマホもコンビニもなく、今よりは不便だったはずですが、**おおらかな時代**だったようです。言葉を換えると**雑な面**もあったことでしょう。ですから、家でも学校でも外でも、今では考えられないような**危ない遊び**や**理不尽なこと**もありました。しかし、社会は時代と共に成長します。長い年月の間に、科学技術や通信機器は発達し、物はあふれ、移動は早くなり、人権感覚は磨かれ、暮らしは良くなりました。ですが、なぜでしょう。今の子供たちは**人としての「たくましさ」という面では弱くなっている**気がします。

自然が少なくなり、物があふれる中で子供たちの奔放な時間が変化するのは仕方ないことですが、であればこそ、**精神的な「たくましさ」を育てる接し方が必要**になると思うのです。子供が弱気になったとき、**優しく受け止めるべきなのか**、**背中を押して前に進ませるべきなのか**、一概には言えませんが、意図を持って、**あえて厳しい態度を示さなければならない**こともあります。スマホにしろ、ゲームにしろ、買い与えれば子供は喜びますが、本当にそれでいいのか、**大人が覚悟を持って思いとどまることが試される時代**になったのだと私は思います。

**「子供を守る」「子供を強く育てる」とは**、どういうことなのか。まさにすべての**大人に突きつけられた問題**なのです。